

## 平成14年度財団法人東洋文庫事業報告書

財団法人 東洋文庫  
理事長 斯波義信

平成15年3月31日現在までに行われた財団法人東洋文庫事業の報告は下記の通りです。

### 事業内容

#### A 研究事業

##### 事業項目

- I 調査研究
- II 研究資料収集
- III 研究資料出版
- IV 普及活動
- V 学術情報提供

#### B 図書館事業

##### 事業項目

- I 研究資料収集
- II 普及活動
- III 学術情報提供

## A 研究事業

### I. 調査研究

#### (1) 一般調査研究

新研究プロジェクト：「地域間比較の手法による伝統的社会的仕組みと展開に関する研究

－東アジア・中央アジア・西アジアを中心に－

平成12年度から4年間は、朝鮮・中国・中央アジア・西アジアを中心に、ユーラシア大陸を東西につらぬくアジア社会をとりあげ、写本・刊本・文書資料等にもとづいて伝統的社会的しくみとその展開を地域間比較の視点から体系的に考察する。

本年度は、特に、東亜考古学研究委員会・中央アジア・イスラム研究委員会を中心に調査研究を進めた。

#### A) 東亜考古学研究委員会（第1部門）

『東アジア都城遺跡研究』の作成。

#### B) 中央アジア・イスラム研究委員会（第4部門）

『イラン議会文書主題索引』の作成。

#### C) 資料購入

区分	和漢書	洋書
数量	570冊	875冊

#### (2) 特別調査研究

##### A) チベット特別調査研究

[目的] チベット人との協同によるチベットの歴史・言語・宗教・社会の総合的研究

[研究課題] チベット語文語辞典の編纂

[事業内容]；

##### 1) チベット語文語辞典編纂のための調査・研究

チベット研究委員会受入のチベット人研究者の協力のもとに下記の作業を進めた。

(1) 東洋文庫所蔵チベット撰述蔵外文献解題目録編纂のカードを点検し、目録データベースの作成を継続した。

(2) チベットの伝統的仏教学の基礎教程について数冊の教科書を選び、チベット人研究者の指導のもとに、分析・研究を進めた。

(3) 『チベット語文語辞典』編纂の基礎資料としてチベット仏教の基本的文献についてのデータベースの作成を継続した。

##### 2) チベット文献の収集・整理

区分	洋書
数量	24冊

##### 3) 研究成果の刊行

## B) 近代中国特別調査研究

[目的] 近・現代中国研究関係資料の収集・整理とこれらの資料の書誌的研究

[研究課題] 近・現代中国研究関係資料の書誌的研究

[事業内容];

- 1) 共同利用研究
- 2) 情報交換および参考業務 (近代中国研究事務室において常時遂行)
- 3) 図書資料の収集・整理

区分	和漢書	洋書	マイクロフィルム資料
数量	600冊	45冊	33リール

## 4) 研究成果の刊行

- (1) 『近代中国研究彙報』 第25号 A5判 1冊 (刊行済)

## II. 研究資料収集

### (1) 一般研究資料収集

#### A) 資料購入

区分	和漢書	洋書
数量	145冊	67冊

### (2) 特別研究資料収集

#### A) 資料調査 (図書・資料選択リストカード作成済)

#### B) 資料購入

区分	和漢書	洋書
中央アジア	122冊	403冊
東アジア	915冊	1冊
西アジア	4冊	884冊
計	1,041冊	1,288冊

## III. 研究資料出版

### (1) 一般研究資料出版

- A) 『東洋文庫和文紀要』 (東洋学報) 第84巻第1～4号 A5判 4冊 (刊行済)

- B) 『東洋文庫英文紀要』 (*Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*) No.60  
B5判 1冊 (刊行済)

### (2) 特別研究資料出版

A) 『内国史院檔天聰七年』 B5判 1冊 (刊行済) (清代史(滿蒙)研究委員会担当)

B) “*Research Trends in Modern Central Eurasian Studies(18th-20th Centuries):  
Critical Review on Works Published between 1985 and 2000*”  
(東洋文庫欧文論叢 Toyo Bunko Research Library 3)  
A5判 1冊 (刊行済) (小松久男研究員等担当)

#### IV. 普及活動

##### (1) 講演会

###### A) 東洋学講座

(春 期) 共通テーマ; 日本の古典文学 —岩崎文庫書誌解題にちなんで—  
[東洋文庫創立80周年記念講演会 (1)]

第467回 平成14年5月7日 (火)  
「光源氏の名前」 九州大学教授 今西祐一郎氏

第468回 平成14年5月14日 (火)  
「ほととぎす・蓑虫・蛙」 東洋文庫研究員  
和光大学助教授 深沢眞二氏

第469回 平成14年5月21日 (火)  
「三十一字」 東洋文庫研究員  
国文学研究資料館名誉教授  
京都大学名誉教授 佐竹昭広氏

(秋 期) 共通テーマ; 東洋学の至宝: モリソン文庫  
[東洋文庫創立80周年記念講演会 (2)]

第470回 平成14年10月15日 (火)  
「モリソンの仕事とモリソン文庫」 京都大学東南アジアセンター教授  
東京大学東洋文化研究所教授(併) 濱下武志氏

第471回 平成14年10月22日 (火)  
「近代中国のアヘン問題とモリソン文庫」 就実女子大学教授 新村容子氏

第472回 平成14年10月29日 (火)  
「モリソン文庫の逸品選」 東洋文庫理事長 斯波義信氏

###### B) 特別講演会

第1回 平成14年7月5日(金)

“Europe’s Intellectuals and the Challenge of Islam” (ヨーロッパの知識人とイスラームの挑戦)

Prof., Univ. of California(Berkeley) Renate Holub 氏

第2回 平成14年9月5日(木)

「古代突厥・回鶻文献と現代 ―ウイグル族の三大自然崇拝―」

中国新疆師範大学副教授 阿布力米提・拜斯尔 氏

第3回 平成14年9月25日(水)

「中国古文献学与古文献整理」 北京大学中文系教授・古文献研究所長 孫 欽 善 氏

第4回 平成14年12月25日(水)

「楊守敬〈日本訪書〉の二、三の問題について」

中国湖北省社会科学院研究員 夏 日 新 氏

第5回 平成15年2月21日(金)

「“主僕名分”与宋代奴婢的法律地位」 上海師範大学人文学院教授 戴 建 国 氏

## (2) 研 究 会 (東洋文庫談話会)

・平成14年12月18日(金)

「五台山普通院の設置と中唐仏教」 東洋文庫奨励研究員 高 瀬 奈 津 子 氏

・平成15年2月4日(火)

「オスマン朝末期のシリアの社会―家族・人口・戦争―」

日本学術振興会特別研究員 大 河 原 知 樹 氏

## V. 学 術 情 報 提 供

### (1) 研究者養成

中国研究 高瀬 奈津子 (明治大学大学院P.D.)

「中国北朝隋唐時代の仏教と国家・社会の関係」

(平成13・14年度2ヶ年間採用)

### (2) 研究資料の覆刻・増刷の刊行サービス

東洋学報第83巻4号、第84巻1、2、3号	各400部
宋史食貨志譯注(四)	150部
The Diversity of the Socio-economy in Song China 960-1279	80部
近代中国研究叢報 第24号等2種	各50部

(3) 研究者の交流および便宜供与のサービス

A) 長期受入

1) 国内研究者の受入

2) 平成14年度日本学術振興会特別研究員P.D.の受入

大河原 知樹 (慶応義塾大学大学院P.D.)

「イスラム法廷文書をもちいた中東の家族史研究：19～20世紀初頭のダマスカス」

(平成12年度採用、同13・14年度3ヶ年間)

佐藤 健太郎 (東京大学大学院P.D.)

「11～13世紀アンダルス(イスラーム・スペイン)における暦と祭」

(平成14年度採用、同15・16年度3ヶ年間)

安藤 潤一郎 (東京大学大学院P.D.)

「近代中国におけるイスラム系少数民族の研究 ―主として国際関係の視座から」

(平成14年度採用、同15・16年度3ヶ年間)

3) 外国人研究者の受入

王 其 戈 モンゴル文化教育大学教授

「漢語文献に見られるモンゴル民族を中心とした

中国少数民族に関する関係資料の民族学的研究」 (平成14年4月23日以降1ヶ年間・私費)

夏 日 新 中国湖北省社会科学院研究員・歴史研究所所長

「日本収蔵中国魏晉南北朝隋唐時代に関する文献資料の調査と研究」

(平成14年5月31日以降6ヶ月間・中国国家留学基金資助)

B) 研究者の派遣

C) 外国人研究者への便宜供与

China (Peoples Republic)

陳 祖 武 中国社会科学院歴史研究所研究員・副所長

方 克 立 " 研究生院院長・教授

趙 光 遠 " " 教授

全 太 錦 北京師範大学教授

雷 雲 大連図書館副研究館員、館長助理

王 其 戈 内蒙古文化教育大学教授

夏 日 新 湖北省社会科学院歴史研究所所長、研究員

孫 欽 善 北京大学中文系教授・古文庫研究所所長

譚 永 孫 中国第一歷史档案館館長  
王 曉 秋 北京大学教授 他計 47 名

China (Taiwan)

周 婉 筠 中央研究院台灣史研究所研究員  
陳 弱 水 " 歷史語言研究所研究員  
曹 永 和 中央研究院社會科學研究所研究員  
林 英 津 台北中央研究院語言研究所研究員  
劉 維 開 政治大學歷史學系副教授

France

P. Lebigre Professor, EAPUS.

Germany

Erhard Rosner Prof., Ostasiatisches Seminar der Universität Göttingen.  
Claus M. Fischer " " "  
Foon Ming Liew Dr. Institut für Sinologie und Ostasienkunde der  
Westfälische Wilhelms-Universität Münster.

India

TENPA GYALTSEN Geshe, Geluk Sect.

Korea

金 東 昭 韓國大邱カソリック大學教授  
李 文 基 慶北大學校教授  
張 東 翼 " "  
任 大 熙 " 師範大學歷史教育科教授  
河 富 容 韓國國立中央圖書館司書  
權 貞 任 " "  
宗 林 高麗大藏經研究所所長  
金 海 住 東國大學校教授  
卞 順 美 東國大學校教授  
崔 鍾 男 中央僧伽大學教授

Morocco

Mohammed Maghraoui Professor, Faculté des Lettres (Faculty of Arts) l'Université de RABAT.

Nepal

KETSUN ZANGPO Rinpoche, Nyingma Sect.

Russia

Evgenij I. Kychanov Director, Institute of Oriental Studies of Russian Academy of Sciences (St. Petersburg).  
 Rostislav B. Rybakov Director, Institute of Oriental Studies of Russian Academy of Sciences (Moscow).  
 Server Ebubekirov Director, Bahçesaray müze müdürü müdür.  
 Nikolay V. Tsyrempilov Fellow, The institute of Mongolian, Tibetan and Buddhist studies of the Siberian branch of the Russian Academy of Sciences (Ulan-Ude).

U.K.

Joseph McDermott Fellow, St. John's College, University of Cambridge.

U.S.A

Kuniko Yamada Mcvey Librarian, Havard-Yenching Library.  
 Chris Isett Assistant Prof., Univ. of Minnesota.  
 Aradyn Bulag Prof., City Univ. of New York.  
 Renate Holub Prof., Head of Interdisciplinary Studies, Univ. of California (Berkeley).  
 Christin Hess Prof., Univ. of California (San Diego).  
 Kenneth R. Robinson Prof., International Christian Univ.  
 Richard von Glahn Prof., Univ. of California (Los Angeles).

Vietnam

Nguyen Thi Oanh Researcher, Institute of Chinese and Sino Vietnamese Studies,  
 National Center for Social Sciences and Humanity of Vietnam.

D) 研究会等への会場提供サービス

数量\ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
研究会等回数	12	14	22	15	7	15
参加人数	108	322	200	174	59	174

10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
12	19	17	10	20	15	178回
301	181	176	93	202	97	2,087人

(4) 特定研究資料の収集

(5) 参考情報の提供

A) 『東洋文庫年報』 平成13年度版 A 5判 1冊 (刊行済)  
 B) 『宋史食貨志譯注(一)～(四) 語彙索引』 B 5判 1冊 (刊行済)



(6) 広報普及

B 図書館事業

I. 研究資料収集

(1) 一般研究資料収集

A) 資料調査 (図書・資料選択リストカード作成済)

B) 資料交換

区 分	受 贈			寄 贈		
	和漢書	洋 書	計	国 内	国 外	計
単 行 本	1,273冊	7,722冊	8,995冊	1,015冊	673冊	1,688冊
定期刊行物	2,463冊	898冊	3,361冊	2,190冊	1,521冊	3,711冊
計	3,736冊	8,620冊	12,356冊	3,205冊	2,194冊	5,399冊

C) 資料購入 (前掲A研究事業、IIの(1)のA) 参照)

(2) 特別研究資料収集 (前掲A研究事業、IIの(2)のB) 参照)

(3) 蔵書数

和漢書	洋 書	複写資料	計
500,407冊	350,145冊	29,746冊	880,299冊

(4) 研究資料保存整理

A) 補修再製本・製本

1)

区 分	単 行 本		簡易製本
	和 装	洋 装	(和・洋装)
数 量	裏打 3,994枚 250冊	補修 2,438枚 84冊	199冊

2)

区 分	定期刊行物	製映・保存箱	地区類	その他	整理保全
数 量	1,125冊	202点	12枚	0	162点

B) 撮影・焼付

区 分	撮影齣数	フィルム反転	電子複写枚数	整理作業
数 量	22,703齣	42リール	0	6件

## II. 普及活動

### (1) 所蔵文献資料のデータベース公開 (※は平成14年度新規公開分)

名 称	収録件数 (概数)
漢籍資料	67,000
近代中国研究委員会収集 欧文図書	6,900
KOREA関係洋書	※ 900
榎文庫 洋書	※ 4,000
辻文庫 洋書	7,300
モリソン二世文庫・ベラルデ文庫 洋書	4,000
近代中国研究委員会収集 中文図書	※ 27,000
近代中国研究委員会収集 日本文図書	14,000
近代中国研究委員会収集 新収図書目録	10,000
近代日本関係 日本語文献目録	6,000
アラビア語図書(含東大東洋文化研所蔵書)	10,200
ペルシャ語図書(含東大東洋文化研・東京外国語大所蔵書)	6,000
現代トルコ語図書	8,400
オスマントルコ語図書全リスト (PDF)	※ 1,400
キルギス語図書全リスト (PDF)	※ 20
ウイグル語図書全リスト (PDF)	※ 1,100
カザフ語図書全リスト (PDF)	※ 240
河口慧海将来チベット語蔵外文献の検索	500
合 計	174,960

### (1) 文献情報の刊行

『東洋文庫書報』	第34号	A5判	1冊	(刊行済)
『新着図書目録』	第50号	B5判	1冊	(刊行済)

### Ⅲ. 学 術 情 報 提 供

#### (1) 図書・資料の閲覧（協力）等サービス

数量 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
閲覧者人数	209	220	207	255	300	255
閲覧図書数	2,918	3,287	2,477	4,343	5,735	5,134
レファレンス数	56	59	56	69	81	69

10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
316	241	224	180	256	275	2,938人
4,950	3,038	3,662	2,631	3,191	3,156	44,522冊
85	65	60	49	69	74	792件

#### (1) 閲覧者要件の改訂（平成14年10月実施）

下記のとおり要件の緩和・改訂を実施した。

##### （従前）

東洋学の研究・調査を目的として閲覧を希望する人。（原則として、東洋学研究者等の紹介状が必要です。）

##### （改訂後）

日本を含む広くアジア各地域の文化・歴史の研究・調査を目的として閲覧を希望する人。身分証明書等の提示を必要とします。

なお、継続的な閲覧を希望される方は、研究者または研究機関等の紹介状添付（研究者は本人申告）により、継続使用できる閲覧証の交付を受けることができます。

#### (3) 研究資料複写サービス

##### A) マイクロフィルム・紙焼写真

区 分	申込件数	数 量
数 量	405件	28,029枚

##### B) 電子複写

区 分	申込件数	焼付枚数
数 量	838件	59,058枚

#### (4) 覆刻・増刷の刊行サービス

『東洋文庫書報 第33号』

50部

## 平成14年度財団法人東洋文庫特別事業報告書

財団法人 東洋文庫  
理事長 斯波義信

平成15年3月31日現在までに行なわれた財団法人東洋文庫特別事業の報告は下記の通りです。

### 事業内容

#### I. 特別調査研究並びに研究成果の編集・整理等

##### (1) 日本学術振興会科学研究費補助金並びにその他助成金による事業

##### A) 平成14年度科学研究費補助金による事業

##### 1) 研究成果公開促進費（データベース等）の対象事業

〔名称〕「東洋学総合情報システム」 〔東洋文庫電算化委員会委員長：斯波義信〕

（平成6年度以降採用、14年度採用）

〔分野〕「東洋学全般」

〔目的〕

本プロジェクトは、東洋学に関する世界有数の資料を蔵する東洋文庫において、その各種データを有効に活用するために、書誌情報を中心とする各種データをできる限り電子化して提供することを目標としている。

これまでに東洋学に関する電子データは、入力方法の制限や情報化技術の欠如などのために、限定された分野での散発的なものしか見られなかった。本データベースでは、東洋学の専門研究機関としての東洋文庫の次のような特性を活かし、東洋学に関する総合的なデータベース構築を図っている。

- (1) 国内最大規模で世界でも有数の東洋学関係文献を所蔵している。
- (2) 各言語・各分野・各時代にまたがる多数の東洋文庫研究員の協力が得られる。
- (3) Macintoshを中心としたコンピュータ環境において、アジア諸言語のオリジナルスクリプト、ないしは統一的な翻字でデータ処理を行う技術的な蓄積がある。

東洋学が関わる言語には、中国語、ハングルはもとより、アラビア語、ペルシア語、オスマントルコ語、現代トルコ語、ウイグル語、チベット語、ウルドゥー語、モンゴル語など多種多様であり、多くは特殊な文字で記述されているため、そのデータの電子化は極めて困難であった。欧文や翻字データにしても特殊符号が多用されている。東洋文庫所蔵の文献は、これら特殊な文字を使用したものから構成されているため、その情報のデータベース化には、これらの特殊文字の処理が必須の条件である。また、研究者がこれらの情報を利用する場合にも、オリジナルスクリプトで入力・表示・検索・ソートすることによって、より正確で理解しやすいデータアクセスを実現することができる。本データベースでは、これらの資料の書誌データをオリジナルスクリプトで入力し、さらには言語の垣根を越えた統一的データベースフォーマットを構築することにより、他のどこにも見られない東洋学の総合データベースを構築しつつある。東洋文庫はこれら特殊言語に関する資料を最も大量に所蔵している機関であるので、東洋文庫においてこれらの特殊な言語のデータベース化を完成させることができれば、他のより小規模な機関の所蔵資料についても、東洋文庫のデータをベースにし、それとの差分を入力するだけで容易にそれぞれの機関の特殊語のデータベース化を実現することができる。アラビア文字資料の書誌情報に関しては、従来の東洋文庫の技術およびデータを元に、NACSIS-CATへのアラビア文字資料目録化に大きく貢献している。これらの多様なデータをインターネット上で公開することにより、地方の研究者も東洋文庫所蔵データを実際に東洋文庫に足を運ぶ前に確認することができるため、全国の研究者にとっての便益は計り知れない。外国の研究者にとっても、オリジナルスクリプトを使うことによって、共通のインターフェイスでデータアクセスを可能に

することができる。このプロジェクトにより、東洋学の基礎的な書誌データが広く利用できるようにすることを目的とする。

[事業実績概要]；

本プロジェクトは、東洋学に関する世界有数の研究所・図書館である東洋文庫における各種情報を統一した規格のもとにデータベース化し、インターネットなどを通じて自由に検索できるようにすることを目的としている。データベース構築に当たっては、できる限りアジア諸言語のオリジナルスクリプトで入力・表示・検索・ソートを行うことにより、研究者に利用しやすい環境を整備しデータをアップした。また、東洋文庫の豊富な情報を元に他機関のデータベース構築の支援を実施するとともに、アラビア文字文献書誌については、入力支援だけではなく、数機関のデータを統合した総目録を公開している。今年度の書誌情報は、従来の特殊語・中国語・ハングルのデータの他に、特に東洋学に関する洋書の書誌入力を充実させ、19世紀から20世紀初頭の貴重な図書のデータベース（レコード数15,000件）を完成させ、順次公開している。

## 2) 基盤研究 (B) の対象事業

[課題] 「宋代の経済政策及び関連する諸政策の総合的研究」

[研究代表者：斯波義信]

(平成14年度採用、3ヶ年間・初年度)

[目的]；

本研究は、宋代の経済を王朝の官僚機構が記した克明な資料に即しつつ、経済政策・財政運営の全体像の角度から解明することを目的とする。資料の中心をなすものは『宋史食貨志』であり、その資料源にあたる『宋会要輯稿』、政策の立案・執行の理解に不可欠な『朝野類要』それぞれにつき分担する班を編成して推進と統合をはかる。①期間中に、『宋史食貨志』研究班は同書下巻4～8の訳註稿を完成させる。『宋会要輯稿』研究班は他の2班と協力し「地名・一般語彙索引」を作成して、この資料についての索引事業を完結する。『朝野類要』研究班は訳註稿を完成させるとともに、他の2班との合同会で成果を検討し合う。②③中国経済史の基本資料に対する訳註事業は、日本の中国史研究のなかで世界的な評価を得ている領域であり（例、1955-60年、国際宋史計画協力事業への参加）、上記事業の国内外への貢献度は大きい。

[事業実績概要]；

- (1) 『宋史食貨志訳註』(四)(会計、錢幣、会子)を刊行した。(全530頁平成14年5月)
- (2) 『宋史食貨志訳註(一)～(四)語彙索引』を刊行した。(全123頁平成14年12月)
- (3) 『宋史食貨志下3～5塩』及び『同下5～6茶』の訳註成稿について合同検討会を東洋文庫、電通会館、無窮会図書館等において開催した。
- (4) 『宋会要輯稿食貨語彙(地名)索引稿』(A4版 314枚)を作製し、その点検を開始した。
- (5) 続いて『宋会要輯稿食貨語彙(一般)索引稿』を作成中である。
- (6) 『朝野類要』の訳註稿についての合同検討会を、東洋文庫、学習院大学東洋文化研究所、早稲田大学、青山学院大学等において行った。
- (7) 文淵閣『四庫全書』CD-ROM(全文検索版)第1部及び第2部(小計139枚)を購入し、研究に多大な便宜を得ている。
- (8) 『朝野類要』の版本調査を北京大学(清惠棟校、四庫全書原本)及び中国国家図書館(清抄本2種)において行った。
- (9) 研究代表者は米国でアジア学会(ニューヨーク)の年次大会に参加して、本プロジェクトの研究状況を発表し、併せて欧米の研究状況を調べ、また今後の国際協力事業内容について意見交換をした。

## 3) 基盤研究 (C) の対象事業

[課題] 「抄物目録の完成」

[研究代表者：柳田征司](平成14年度採用、2ヶ年間・初年度)

[目的]；

抄物はキリシタン資料・狂言詞章とともに中世日本語研究資料として価値が高い。しかし、その発掘・調査は遅れており、それに従う研究者は近年いなくなっている。筆者は40年近く全国の寺社・文庫・図書館に現地調査し、

1万点にのぼる抄物を調査しているが、さらに調査を進め、その総合目録の完成に努めている。

[事業実績概要]；

- (1) 「今年度の調査」 足利学校・歴博・国会図書館・東洋文庫・国語研究所・公文書館・斯道文庫・学習院大・昭和女子大・大東急文庫・静嘉堂文庫・防衛大・蓬左文庫・神宮文庫・西来寺・京都市大・大谷大・陽明文庫・高山寺・中之島図書館・杏雨書屋・天理図書館・龍門文庫・武庫川女子大・広島市大・徳島県立大・島根大・九州大・松平文庫等において発掘・調査を行った。特に特定の原典を持たない神道関係書（『文意抄』『諸神記』等）、占い関係書（『洗心経』『八卦』等）、辞書（『慶長九年本』『永禄十一年本』）をはじめ新資料を発掘した。
- (1) 「資料性の解明」 既調査資料を含め各資料の解明に努めた。龍門文庫所蔵の『洗心経』が彩色画をもつ、新しい種類の抄物であることがわかり、依拠した明版にさかのぼり、その性格を解明した。天理図書館吉田文庫本を中心に神道関係抄物の整理を完了した。そのうち特定の原典をもたないものがどのくらい伝存するのか見当もつかなかったのであるが、吉田兼俱・兼右・梵舜・その他のものがあることが判明した。片仮名交じり注を持つ辞書のうち節用集の解明もほぼ完了した。
- (1) 「今年度の目録の作成」 ①特定の原典に対する抄物、②書き入れ仮名抄、③特定の原典を持たない一種の抄物、に大きく三分し、目録の作成を進めている。②と③と①のうち漢籍の部はその大部分が完成したが、それに新しく発掘した資料を組み込むことと、①の仏典と国書とに予想以上の時間を必要としている。

#### 4) 基盤研究 (C) の対象事業

[課題] 「渤海都城の考古学的研究」 [研究代表者：田村晃一]

(平成14年度追加採択、2ヶ年間・初年度)

[目的]；

渤海の都城については、昭和8・9年に東亜考古学会が実施した東京城（上京龍泉府）の調査があり、昭和13年度には半拉城（八連城=東京龍原府）、西古城（中京顯徳府）が調査された。戦後になると、1961年に中国・朝鮮合同調査隊が東京城を再調査し、その後も東京城については、中国側によって断続的に調査されている。またその他の都城についても、ごく最近、調査を行ったという。

本研究は、現在東京大学に所蔵されている東京城出土の瓦の整理調査を進めることによって、渤海都城の変遷を明らかにすると共に、従来の渤海都城の調査結果を総括し、中国・朝鮮三国や高麗、日本の平城京や平安京などの都城に関する考古学的な調査結果と比較検討し、渤海の都城が東アジアの古代・中世における都城制度のなかでどのような位置をしめているかという点を明らかにすることを目的としている。

[事業実績概要]；

- (1) 研究集会開催 以下のように3回行った。
  - ①平成14年12月 井上和人「平城京の考古学的調査研究の現状」
  - ①平成15年 1月 妹尾達彦「中国の都城と東アジア」
  - ①平成14年 3月 李 恩碩「新羅の王都について」
- (1) 資料調査実施
  - ①田村が李準浩氏の協力を得て、韓国のソウル大学校に所蔵されている資料の下調べを行った。ソウル大学校では、今年7～9月に大規模な渤海遺物展を開催する計画を持っている。この展覧会が終了した後、10月～11月頃に本格的な遺物の調査を行うこととした。
  - ①清水信行と田村が小嶋芳孝氏の援助を得て、福井県立博物館と斉藤優氏宅に所蔵されている渤海関係遺物の調査、写真撮影などを行った。
  - ①飯島武次と田村が北京大学、中国社会科学院歴史研究所、考古研究所などで、王仲殊氏、斎東方氏らと会談し、中央における渤海研究の状況について調査した。
- (1) 史・資料整理
  - ①田村が千葉芳子氏の協力を得て、「渤海関係基本史料」を整えるため、文淵閣版『四庫全書』中の渤海関係記事約3,000件の検討を行い、将来のデータベース化のためのカード作成（約500枚）を行った。

① 田村の監督のもと、鄭仁盛氏による、東大収蔵の上京出土資料の整理を行った。

## B) その他の平成14年度研究助成金による事業

### 1) 三菱財団人文科学研究助成の対象事業

〔課題〕「中国古代地域史研究『水経注』の分析から」

〔代表研究者：堀 敏一〕（平成14年10月～同17年9月・3ヶ年間）

〔目的〕；

近年、科学的な調査と考古学的な発掘および夥しい出土文物によって、中国古代史研究は更めて、中原地域とその周辺の各地域を対象とする地域史を中心に、具体的な史料の再構築の必要性がさげばれている。

『水経注』は、中国最古の地理書（原典6世紀）として、中国の河川を中心として、各地域の地勢及び都邑・遺址・遺物に関して、調査を行ったものである。さらに注目すべきは各地の人物や歴史事実の記録、及び伝承に至るまで丁寧な記録を残している。これは古代地域史の資料の宝庫である。

中国では、宋・明以来、それまでに佚われた部分を含めて、この史料の正確な復原と解注が行われ、特に清朝考証学者及び二十世紀以後の歴史学者がその研究に多大な努力を行って来た。我々はその基礎に立って中国古代史研究の立場から『水経注』の理解と評価とを再検証して、現代につながる新たな中国古代の地域史の具体像を明らかにすることを目的とする。

〔事業実施概要〕；

本研究は、東洋文庫前近代中国研究班「中国古代地域史研究」チームが、従来、継続してきた中国都市研究会の研究事業の一環として行うものである。本研究は10年余に亘って中国古代の各都邑の考古学的調査を行ってきた結果、基本文献たる『水経注』の再調査の必要性を痛感した。その為、各時代の専門研究分担者は、それぞれ以下の史料調査を実施した。

殷周時代（松丸道雄）、春秋戦国時代（宇都木 章）、秦漢時代（太田幸男、飯尾秀幸）、三国南北朝時代（堀 敏一、塩沢裕仁）。この史料調査研究は、各々研究分担者を中心にして、各時代の若い研究者の補助を得て、必要な資料を集め、整理・分析を行った。

現在、毎月2回、「中国古代地域史研究」チームにおいて『水経注疏』をテキストにして、輪読を行っているが、今後、各分担者は、注疏の引用する原典を再検討し、特に最新の精密な地図および衛星写真（ランドサット地図）によって作成された詳細な地勢、地名、遺址の位置の確認と改訂とを遂行中である。そのために日中における最新の研究情報を交換し、近く専門研究者の派遣・招聘を行う予定である。その結果は、毎回、解説原稿を作成し、殷周～三国南北朝の時代ごとに集大成する。それによって永年の懸案である『新版・水経注疏』の成果としてまとめることを期すものである。

## (2) 各研究委員会による収集資料の整理・研究並びに研究成果の編集等

### A) 東亜考古学研究委員会

- ① 「東アジア都城遺跡研究」の作成。（以上、前年度の継続）
- ② 故梅原末治評議員（京都大学名誉教授）の寄贈にかかる東亜考古学資料（写真、実測図、拓本、野帖等）の整理とその目録の作成。

### B) 古代史研究委員会

- ① 中国古代都市研究会の開催。
- ② 水経注研究会および張家山漢墓出土竹簡（漢律）の講読会の開催。
- ③ 「東アジア都城遺跡研究」の作成協力。
- ④ 『晋書食貨志講注』の作成。（以上、前年度の継続）
- ⑤ 東洋文庫所蔵中国画像銘、造像銘、墓碑銘拓本の整理研究。

### C) 唐代史（敦煌文獻）研究委員会

- ① 国内外に現存する西域出土古文書の所在調査と、マイクロフィルムによる収集・整理。
- ② 内外の諸機関・研究者に対する既収敦煌等文献及びそれらの研究成果の公開・情報の提供。
- ③ 敦煌・吐魯番等出土文書関係論著の収集及びそれらに引用された出土文書番号の採録カード（研究文献目録補遺）の補充。
- ④ 内陸アジア出土古文献研究会の開催。
- ⑤ 日本現存中国拓本研究会の開催。（以上、前年度の継続）

D) 宋代史研究委員会

- ① 『宋史食貨志訳註(五)(六)及び総索引編』の作成。
- ② 『宋史食貨志訳註(一)～(四)索引』小冊子の作成。
- ③ 『朝野類要訳註』の作成。
- ④ 『宋会要輯稿』食貨之部の要項（地名、一般）及び語彙索引の作成。（以上、前年度の継続）

E) 明代史研究委員会

- ① 明代社会経済等に関する文献・『実政録』（呂坤賢）の講読会の開催。（前年度の継続）

F) 清代史（満蒙）研究委員会

- ① 「東洋文庫所蔵満文」案の整理・研究。（隔週、研究会の開催）
- ② 各国所蔵の満洲語文献の総合的調査・研究。（以上、前年度の継続）

G) 近代中国研究委員会

- ① 近現代中国関係資料の書誌的研究。
- ② 近現代中国関係資料の収集、整理、データ作成。
- ③ 中国調査資料研究会の開催。
- ④ 日中現代史研究会の開催。（以上、前年度の継続）

H) 日本研究委員会

- ① 『東洋文庫所蔵岩崎文庫貴重書誌解題(IV)(V)』の作成。（前年度の継続）

I) 朝鮮研究委員会

- ① 『朝鮮王朝後期戸籍大帳解題』の作成。（前年度の継続）
- ② 漢字の朝鮮字音、中国音韻学の研究・調査。
- ③ 李氏朝鮮の財政・民政関係史及び外交文書資料の講読・研究。

J) 中央アジア・イスラム研究委員会

- ① イスラム国家論・都市論の月例研究会の開催。
- ② ロシア所蔵中央アジア古代語文献の総合的研究。
- ③ イスラム社会の構造の研究。
- ④ 中央アジア・トルコ諸民族史の研究。（以上、前年度の継続）
- ⑤ 隊商貿易史の研究。
- ⑥ トルコ日本両国の近代化の比較研究。

K) チベット研究委員会

- ① 東洋文庫所蔵チベット語文献のデータベース作成。（以上、前年度の継続）
- ② チベット語文献講読会の開催。

L) 南方史研究委員会

- ① 南アジア中世史（イスラム政權時代）・東南アジア関係史料の蒐集。（前年度の継続）
- ② タイ語関係研究資料の整理、目録の作成。
- ③ 山本文庫の整理。
- ④ 辻文庫目録(3)、荻原文庫目録のIndexの作成。



## 平成14年度財団法人東洋文庫特定事業報告書

財団法人 東洋文庫  
理事長 斯波義信

平成15年3月31日現在までに行われた財団法人東洋文庫特定事業報告の概要は下記の通りです。

### 事業内容

[事業名] アジア関係資料データベース化プロジェクト [プロジェクト代表: 斯波義信]

[期間] 平成13年度～同17年度(5ヶ年計画)

当初予定された事業は完了したので、新たに東南アジア関係の資料のデータベース化事業を推進する。

[目的] 本プロジェクトは生化学工業株式会社社長水谷当称氏の寄付金5千万円を以て、東南アジア研究を促進するためであったが、当初予定の事業を終えたので、今後は広く東南アジアを中心としたアジア関係資料の公開も含め、データベース化事業を推進することを目的とする。

[事業] アジアを中心とした資料の整理公開のためのデータベース化事業を進めた。

平成14年度ユネスコ東アジア文化研究センター事業報告書

財団法人東洋文庫附置  
ユネスコ東アジア文化研究センター  
所長 石井米雄

平成14年度ユネスコ東アジア文化研究センターの諸事業の概要は下記の通りです。

事業項目

- I ユネスコ協力事業
- II 学術情報事業－アジア・北アフリカ人文・社会科学関係－
  - 1. “Asian Research Trends” の編集・出版
  - 2. 国内外研究情報の収集
- III コンピュータネットワーク事業
  - 1. 研究情報データベースの作成
  - 1. コンピュータネットワークの形成
- IV 重要文献の研究・保存事業－アジア重要文化財（文献）の研究・保存－
  - 1. アジア史料の研究・保存

## 事業内容

### I ユネスコ協力事業

#### (1) 「中央アジア文明史」編集協力

ユネスコ本部の編集にかかる「中央アジア文明史」シリーズについて、本部から編集委員の委嘱を受けた梅村坦氏（専門委員、中央大学教授）を中心として組織した「中央アジア文明史編集協力委員会」（委員9名）を通じて、同シリーズ第5巻・第6巻（16世紀-20世紀）の編集に協力した。

#### (2) 「日本の哲学・思想」情報提供

日本ユネスコ国内委員会篇『日本の思想』シリーズ全11巻（英文“Philosophical Studies of Japan”日本学術振興会 1959-1976年刊）について、インターネット上で和文・英文によって紹介するため、ウェブサイト（ホームページ）を東洋文庫のウェブサイト内で公開した。

### II 学術情報事業 -アジア・北アフリカ人文・社会科学関係-

#### 1 “Asian Research Trends”の編集・出版

英文の定期刊行物“Asian Research Trends : A Humanities and Social Science Review”の編集・出版を行った。本年度はNo. 13(2003)を刊行し、世界各地域におけるアジア研究の動向を中心に掲載した。

#### 2. 国内外研究情報の収集

##### (1) 国内研究情報の収集

いわゆる「東洋学」の関連研究分野における研究機関のネットワーク形成を推進するため、主要なアジア研究機関、学会、および日本学術会議等との間に、相互の訪問・通信等による研究情報の交換を行った。また、研究機関が発行する要覧・紀要等を収集した。

##### (2) 国外研究情報の収集

###### A. 国外研究機関の訪問調査

本年度調査国の研究機関、研究状況等についての資料を収集し、アジア関係研究機関の訪問調査を実施した。その対象国・派遣調査員・調査期間は下記の通りである。

大韓民国 藤井和雄（センター運営委員、日野市教育 5月1日-5月12日委員会生涯学習部生涯学習課副主幹）

本調査は、韓国に関する継続調査として行われ、ソウル、光州、大邱、大田所在の研究機関を訪問した。あわせて、国立中央博物館において『朝鮮植民地期文化財調査報告書』の編集・出版（IV-1-(2)事業のための調査研究を行った。

大韓民国 藤井和雄（前出） 10月31日-11月10日

田才雅彦（センター共同研究員、北海道 10月31日-11月8日教育庁生涯学習部文化課調査班主査）

本調査は、韓国に関する継続調査として行われ、済州道、光州、羅州、全州、ソウル所在の研究機関・遺跡等を訪問した。あわせて、ソウルおよび公州において『朝鮮植民地期文化財調査報告書』の編集・出版（IV-1-(2)事業のための調査研究を行った。

###### B. 講演会・研究会の開催

諸外国の研究情報を得、国内研究者との交流を図るため、下記の研究会の開催に協力した。

李康承 大韓民国 忠南大学校文科大学考古学科教授

主題：忠南地方の最近の考古学的調査について

期日：8月4日（日）

会場：青山学院大学校友会室

主催：東北亜細亜考古学研究会

尚曉波 中華人民共和国 遼寧省朝陽市博物館館長

主題：3-6世紀東北アジアの「馬具文化園」

期日：10月22日（火）

会場：青山学院大学総研ビル会議室

主催：東北亜細亜考古学研究会

#### C.外国人研究者、各種専門家に対する便宜供与

センターを訪れ、またはセンターが情報提供等の便宜をおこなった外国研究者は下記の通りである。

Brij Tankha Reader in Modern Japanese history, Dept. of Chinese & Japanese Studies Univ. of Delhi India

Momoko Yokoi 教育省語学センター (MOELC) 講師, Singapore

Emily, M. Hill Assistant Professor, Dept. of History, Queen's Univ., Kingston, Ontario, Canada

李文基 慶北大学校人文大学歴史学科教授、大邱、韓国

張東翼 慶北大学校師範大学歴史科教授、大邱、韓国

曹永和 中央研究院院士；国立台湾大学文学院歴史学系兼任教授、台北、台湾

Skulason pall Rector, Univ. of Iceland, Reykjavik, Iceland

Boussemart, Anthony Ecole française d'Extreme-Orient Bibliotheque, Paris, France

#### D.フランス国立極東学院東京支部との協力

財団法人東洋文庫内に平成6年4月に設置されたフランス国立極東学院東京支部との協力関係を確立するため、相互の交流を推進した。東京支部代表は同学院研究員ジャン-フランソワ・ムース氏である。

##### (3)海外専門家の招聘

学術交流を目的として海外の専門家を下記の通り招聘した。

李康承 大韓民国、忠南大学校文科大学考古学科教授

7月18日-8月5日 韓国考古学・歴史学に関する日韓の相互理解をはかるために招聘した。東京及び福岡、北海道、宮城、山形、福島各県において遺跡・博物館等の視察、研究交流を行った。

学術交流を目的として来日中の海外の専門家を下記の通り国内において招聘した。

裴躍軍 中華人民共和国、遼寧省鉄嶺博物館副館長

7月6日-7月12日 日本考古学・博物館の調査研究のために来日中の同氏を、東北アジア考古学・歴史学に関する日中の相互理解および日本考古学・歴史学に関する情報交換を行う為に招聘した。京都・滋賀・奈良・大阪の各府県において遺跡・博物館等の視察、研究交流を行った。

尚曉波 中華人民共和国、遼寧省鉄嶺朝陽市博物館館長

10月22日-10月23日 龍谷大学の招聘により来日中の同氏を、東北アジア考古学・歴史学に関する日中の相互理解および日本考古学・歴史学に関する情報交換を行う為に招聘した。京都・滋賀・奈良・大阪の各府県において遺跡・博物館等の視察、研究交流を行った。東京において博物館等の視察、研究交流を行った。

### III コンピュータネットワーク事業

#### 1. 研究情報データベースの作成

#### (1)国内研究者ディレクトリの編集・出版

研究者名簿の収集・整理、研究者個人カードの作成を行い、各研究者の活動状況に関する情報を収集・更新した。情報はすべてコンピュータ入力し、データベース化している。

対象分野は、①アジア歴史学、②アジア言語文学、③印度学仏教学、④中国学、⑤韓国・朝鮮学である。

#### (2)国内研究文献目録の編集・出版

研究文献目録の編集を進めるため、資料の収集を行った。情報はすべてコンピュータ入力し、データベース化している。対象分野は、①中央アジア研究文献、②中東イスラーム研究文献である。

### 2.コンピュータネットワークの形成

#### (1)東洋文庫ホームページによる情報提供

同ホームページにおいて、下記の研究文献目録のデータベースを公表した。

A「日本における中央アジア関係研究文献目録」

B「日本における中東・イスラーム研究文献目録」

#### (2)国立情報学研究所への情報提供

国立情報学研究所の情報検索サービス（NACSIS-IR）に下記の研究文献目録および研究者ディレクトリのデータを提供した。

A「日本における中央アジア関係研究文献目録」

B「日本における中東・イスラーム研究文献目録」

C「日本におけるアジア歴史研究者ディレクトリ」

D「日本における印度学仏教学研究ディレクトリ」

7月19日に上記のうちCとDのデータを更新した。また、3月10日に上記のうちAとBのデータを更新した。

### IV重要文献の研究・保存事業 -アジア重要文化財（文献）の研究・保存

#### 1.アジア史料の研究・保存

##### (1)「十九世紀対外関係ベトナム史料」の編集・出版

フランス国立極東学院（EFEO）所蔵のベトナム漢文史料『国朝処置萬象事宜録』を写真複製し、原典の歴史学的研究を行った。本書は、19世紀初頭のタイ・ラオス外交に関するベトナム漢文史料『国朝処置萬象事宜録』鈔本2巻の本文を英訳し、解説と注釈を付したものである。注釈者はユマリ・ガオシヴァトゥン氏およびブイパン・ガオシヴァトゥン氏である。

また、ベトナム文化、とくに印刷技術に関する史料の調査研究を実施した。

##### (2)「朝鮮植民地期文化財調査報告書」の編集・出版

同書の編集を行い、「朝鮮古蹟研究会遺稿」Ⅱ、Ⅲとして刊行した。本書は朝鮮総督府時代に実施された文化遺跡等の調査のうち未報告の資料をまとめたものである。編著者は有光教一高麗美術館研究所所長・京都大学名誉教授ならびに藤井和夫実践女子大学講師である。

##### (3)ユネスコ寄託マイクロフィルムの保存・普及